

## グローバルCOEプログラム 平成19年度採択拠点中間評価結果について

平成21年9月  
グローバルCOEプログラム委員会

我が国の大学が、世界トップレベルの大学と伍して教育及び研究活動を行っていくためには、第三者評価に基づく競争原理により競争的環境を一層醸成し、国公立大学を通じた大学間の競い合いがより活発に行われることが重要であることから、文部科学省においては、大学の構造改革の一環として、平成14年度から、世界的な研究教育拠点の形成を重点的に支援し、もって国際競争力のある世界最高水準の大学づくりを目指す「21世紀COEプログラム」を実施してきた。

「21世紀COEプログラム」により、大学改革の推進、優れた若手研究者の育成、新たな学問分野の開拓や研究水準の向上などが図られてきたが、知識基盤社会、グローバル化の進展のなかで、国際的に第一級の力量をもつ研究者の育成は益々その重要性を増しており、平成17年9月の中央教育審議会答申「新時代の大学院教育」や平成18年3月に閣議決定された「科学技術基本計画」においても、より充実・発展させた形でポスト「21世紀COEプログラム」を実現することが必要であるとされている。

これらを踏まえ、学際、複合、新領域も含めたすべての学問分野を対象として、特に、産業界も含めた社会のあらゆる分野で国際的に活躍できる若手研究者の育成機能の抜本的強化と国際的に卓越した教育研究拠点の形成を図るため、平成19年度から文部科学省の新規事業として、「グローバルCOEプログラム」が開始されたものである。

「グローバルCOEプログラム」は、我が国の大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、国際的に卓越した研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、もって、国際競争力のある大学づくりを推進することを目的としている。

本事業は、国公立大学における大学院研究科専攻等（博士課程レベル）が、国際的に卓越した教育研究拠点を形成するための事業計画に対して補助を行うもので、

- ① 学長を中心としたマネジメント体制による指導力の下、大学の特色を踏まえた将来計画と強い実行力により、国際的に卓越した教育研究拠点を形成する計画であること。
- ② このグローバルCOEプログラムで行う原則5年間の事業が終了した後も、国際的に卓越した教育研究拠点としての継続的な教育研究活動が自主的・恒常的に行われることが期待できる計画であること。
- ③ 研究プロジェクトではなく、国際的に優れた研究基盤や特色ある学問分野の開拓を通じた独創的、画期的な研究基盤を前提に、高度な研究能力を有する人材育成の機能を持つ教育研究拠点（人材養成の場）を形成するものであって、将来の発展性が見込まれる計画であること。
- ④ 特に、学際、複合、新領域分野については、例えば、将来的に研究科及び専攻の再編などの組織改革及びカリキュラム改革につながるなど、発展性が考えられる計画であること。

また、上記に加えて、申請内容により、

- ⑤ 21世紀COEプログラムに採択されている拠点については、21世紀COEプログラムで期待された成果が十分に得られていること、
  - ⑥ 他の大学等（国内外の研究機関を含む。）との連携による取組みについては、拠点となる大学及び将来的な拠点構想が明確となっており、その連携が拠点形成に必要な不可欠であること、
- の2つを加えた上記の条件のもとで採択された拠点形成計画に対し、重点的支援を行うものである。

中間評価は、補助金によるグローバルCOEプログラム事業の進捗状況等を専門家や有識者により確認し、事業の効果的な実施を図り、拠点形成の目的が十分達成されるよう適切な助言を行うと

ともに、国際的に卓越した教育研究拠点として真に将来の発展が見込まれるかを評価し、その結果に基づいて補助金の適正配分に資することを目的とし、採択された教育研究拠点の補助事業について、評価要項に基づいて、2年経過後に行うものである。

平成19年度採択拠点の中間評価は、独立行政法人日本学術振興会において、平成19年度に採択された5分野（「生命科学」、「化学、材料科学」、「情報、電気、電子」、「人文科学」、「学際、複合、新領域」）の国公立大学28大学63拠点から、進捗状況報告書・拠点形成計画調書等の各種調書の提出を受け、グローバルCOEプログラム委員会（日本学術振興会を中心に、大学評価・学位授与機構、日本私立学校振興・共済事業団、大学基準協会の4機関により運営）の下に、分野別審査・評価部会を設け、現時点での進捗状況を確認し、当初目的の達成が可能か否かについて専門的観点から実施した。

これらの結果に基づき、9月11日の本委員会において、分野別審査・評価部会における総括評価の結果等、中間評価結果をとりまとめた。

今後、各大学・拠点において、中間評価結果（総括評価・コメント）を基に、計画の推進または見直しを行い、最大限の成果をあげることを期待し、公表するものである。

#### 資料

1. グローバルCOEプログラム 平成19年度採択拠点中間評価実施拠点一覧
2. グローバルCOEプログラム 平成19年度採択拠点中間評価結果一覧
3. 平成21年度グローバルCOEプログラム委員会等の日程について
4. 平成21年度グローバルCOEプログラム委員会委員名簿等
5. グローバルCOEプログラム評価要項
6. グローバルCOEプログラム 平成19年度採択拠点中間評価【特に優れている拠点】
7. グローバルCOEプログラム 平成19年度採択拠点中間評価結果

# 1. グローバルCOEプログラム 平成19年度採択拠点中間評価実施拠点一覧

## 【生命科学】

拠点番号	拠点プログラム名称	機関名	中核となる専攻等名	拠点リーダー名	連携先機関名(※)
A01	脳神経科学を社会へ還流する教育研究拠点	東北大学	医学系研究科医科学専攻	大隅 典子	
A02	生体調節シグナルの統合的研究	群馬大学	生体調節研究所	小島 至	秋田大学
A03	生体シグナルを基盤とする統合生命科学	東京大学	医学系研究科機能生物学専攻	宮下 保司	
A04	生命時空間ネットワーク進化的教育研究拠点	東京工業大学	生命理工学研究科生命情報専攻	白髭 克彦	東京医科歯科大学、独立行政法人理化学研究所、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(アメリカ)、スクリプス研究所(アメリカ)、国立科学研究センター(フランス)
A05	システム生命科学の展開:生命機能の設計	名古屋大学	理学研究科生命理学専攻	近藤 孝男	
A06	生物の多様性と進化研究のための拠点形成	京都大学	理学研究科生物科学専攻	阿形 清和	
A07	高次生命機能システムのダイナミクス	大阪大学	生命機能研究科生命機能専攻	柳田 敏雄	
A08	統合的膜生物学の国際教育研究拠点	神戸大学	医学研究科医科学専攻	片岡 徹	
A09	フロンティア生命科学グローバルプログラム	奈良先端科学技術大学院大学	バイオサイエンス研究科分子生物学専攻	島本 功	
A10	個体恒常性を担う細胞運命の決定とその破綻	九州大学	システム生命科学府システム生命科学専攻	藤木 幸夫	
A11	細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット	熊本大学	発生医学研究所	桑 昭苑	
A12	ピコバイオロジー:原子レベルの生命科学	兵庫県立大学	生命理学研究科生命科学専攻	吉川 信也	
A13	In vivoヒト代謝システム生物学拠点	慶應義塾大学	医学研究科医学研究系専攻	末松 誠	カロリンスカ研究所(スウェーデン)、デューク大学(アメリカ)、ボストン大学(アメリカ)

※他の大学等(大学を含めた国内外の研究機関)と連携した拠点形成計画

## 1. グローバルCOEプログラム 平成19年度採択拠点中間評価実施拠点一覧

### 【化学、材料科学】

拠点番号	拠点プログラム名称	機関名	中核となる専攻等名	拠点リーダー名	連携先機関名(※)
B01	触媒が先導する物質科学イノベーション	北海道大学	工学研究科有機プロセス工学専攻	宮浦 憲夫	
B02	分子系高次構造体化学国際教育研究拠点	東北大学	理学研究科化学専攻	山口 雅彦	
B03	材料インテグレーション国際教育研究拠点	東北大学	金属材料研究所	後藤 孝	
B04	理工連携による化学イノベーション	東京大学	理学系研究科化学専攻	中村 栄一	
B05	材料イノベーションのための教育研究拠点	東京工業大学	理工学研究科有機・高分子物質専攻	竹添 秀男	独立行政法人産業技術総合研究所、独立行政法人物質・材料研究機構光触媒材料センター
B06	新たな分子化学創発を目指す教育研究拠点	東京工業大学	理工学研究科化学専攻	鈴木 啓介	独立行政法人理化学研究所
B07	国際ファイバー工学教育研究拠点	信州大学	総合工学系研究科生命機能・ファイバー工学専攻	平井 利博	
B08	分子性機能物質科学の国際教育研究拠点形成	名古屋大学	理学研究科物質理学専攻(化学系)	渡辺 芳人	
B09	物質科学の新基盤構築と次世代育成国際拠点	京都大学	工学研究科高分子化学専攻	澤本 光男	
B10	生命環境化学グローバル教育研究拠点	大阪大学	工学研究科生命先端工学専攻	福住 俊一	
B11	構造・機能先進材料デザイン教育研究拠点	大阪大学	工学研究科マテリアル生産科学専攻	掛下 知行	
B12	未来分子システム科学	九州大学	工学府物質創造工学専攻	君塚 信夫	
B13	「実践的化学知」教育研究拠点	早稲田大学	先進理工学研究科応用化学専攻	黒田 一幸	

※他の大学等(大学を含めた国内外の研究機関)と連携した拠点形成計画

# 1. グローバルCOEプログラム 平成19年度採択拠点中間評価実施拠点一覧

## 【情報、電気、電子】

拠点番号	拠点プログラム名称	機関名	中核となる専攻等名	拠点リーダー名	連携先機関名(※)
C01	知の創出を支える次世代IT基盤拠点	北海道大学	情報科学研究科コンピュータサイエンス専攻	有村 博紀	
C02	情報エレクトロニクスシステム教育研究拠点	東北大学	工学研究科電気・通信工学専攻	安達 文幸	
C03	サイバニクス:人・機械・情報系の融合複合	筑波大学	システム情報工学研究科知能機能システム専攻	山海 嘉之	大阪大学
C04	セキュアライフ・エレクトロニクス	東京大学	工学系研究科電気系工学専攻	保立 和夫	
C05	計算世界観の深化と展開	東京工業大学	情報理工学研究科数理・計算科学専攻	渡辺 治	スイス連邦工科大学チューリッヒ校(スイス)、カリフォルニア大学サンディエゴ校(アメリカ)
C06	フォトニクス集積コアエレクトロニクス	東京工業大学	総合理工学研究科物理電子システム創造専攻	小山 二三夫	カリフォルニア大学バークレイ校(アメリカ)、ケンブリッジ大学(イギリス)
C07	インテリジェントセンシングのフロンティア	豊橋技術科学大学	工学研究科電子・情報工学専攻	石田 誠	
C08	知識循環社会のための情報学教育研究拠点	京都大学	情報学研究科社会情報学専攻	田中 克己	
C09	光・電子理工学の教育研究拠点形成	京都大学	工学研究科電子工学専攻	野田 進	
C10	アンビエント情報社会基盤創成拠点	大阪大学	情報科学研究科情報ネットワーク学専攻	村田 正幸	
C11	次世代電子デバイス教育研究開発拠点	大阪大学	工学研究科電気電子情報工学専攻	谷口 研二	福井大学
C12	アクセス空間支援基盤技術の高度国際連携	慶應義塾大学	理工学研究科総合デザイン工学専攻	大西 公平	ハーバード大学(アメリカ)、西安交通大学(中国)、国立中央理工学校リヨン校(フランス)
C13	アンビエントSoC教育研究の国際拠点	早稲田大学	基幹理工学研究科情報理工学専攻	後藤 敏	

※他の大学等(大学を含めた国内外の研究機関)と連携した拠点形成計画

# 1. グローバルCOEプログラム 平成19年度採択拠点中間評価実施拠点一覧

## 【人文科学】

拠点番号	拠点プログラム名称	機関名	中核となる専攻等名	拠点リーダー名	連携先機関名(※)
D01	心の社会性に関する教育研究拠点	北海道大学	文学研究科人間システム科学専攻	山岸 俊男	カリフォルニア大学サンタバーバラ校(アメリカ)
D02	死生学の展開と組織化	東京大学	人文社会系研究科基礎文化研究専攻	島藺 進	
D03	共生のための国際哲学教育研究センター	東京大学	総合文化研究科超域文化科学専攻	小林 康夫	
D04	コーパスに基づく言語学教育研究拠点	東京外国語大学	総合国際学研究科言語文化専攻	峰岸 真琴	
D05	格差センシティブな人間発達科学の創成	お茶の水女子大学	人間文化創成科学研究科人間発達科学専攻	耳塚 寛明	
D06	テキスト布置の解釈学的研究と教育	名古屋大学	文学研究科人文学専攻	佐藤 彰一	
D07	心が活きる教育のための国際的拠点	京都大学	教育学研究科教育科学専攻	子安 増生	
D08	コンフリクトの人文科学国際研究教育拠点	大阪大学	人間科学研究科人間科学専攻	小泉 潤二	
D09	論理と感性の先端的教育研究拠点形成	慶應義塾大学	社会学研究科心理学専攻	渡辺 茂	独立行政法人理化学研究所、ケンブリッジ大学(イギリス)、ウイーン大学(オーストリア)、ビーレフェルト大学(ドイツ)、エコール・ノルマル・シュペリエール(フランス)、エコール・ポリテクニク(フランス)
D10	演劇・映像の国際的教育研究拠点	早稲田大学	演劇博物館	竹本 幹夫	
D11	日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点	立命館大学	アート・リサーチセンター	赤間 亮	ロンドン大学(イギリス)
D12	東アジア文化交渉学の教育研究拠点形成	関西大学	文学研究科文化交渉学専攻	陶 徳民	

※他の大学等(大学を含めた国内外の研究機関)と連携した拠点形成計画

## 1. グローバルCOEプログラム 平成19年度採択拠点中間評価実施拠点一覧

【学際、複合、新領域】

拠点番号	拠点プログラム名称	機関名	中核となる専攻等名	拠点リーダー名	連携先機関名(※)
E01	新世紀世界の成長焦点に築くナノ医工学拠点	東北大学	医工学研究科医工学専攻	山口 隆美	
E02	世界を先導する原子力教育研究イニシアチブ	東京大学	工学系研究科原子力国際専攻	岡 芳明	
E03	アジア視点の国際生態リスクマネジメント	横浜国立大学	環境情報研究院自然環境と情報部門	松田 裕之	国立環境研究所
E04	生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点	京都大学	東南アジア研究所	杉原 薫	
E05	医・工・情報学融合による予測医学基盤創成	大阪大学	臨床医工学融合研究教育センター	野村 泰伸	
E06	乾燥地科学拠点の世界展開	鳥取大学	乾燥地研究センター	恒川 篤史	砂漠研究所(アメリカ)、国際乾燥地農業研究センター(シリア)
E07	化学物質の環境科学教育研究拠点	愛媛大学	沿岸環境科学研究センター	田辺 信介	
E08	放射線健康リスク制御国際戦略拠点	長崎大学	医歯薬学総合研究科放射線医療科学専攻	山下 俊一	
E09	健康長寿科学教育研究の戦略的新展開	静岡県立大学	生活健康科学研究科食品栄養科学専攻	今井 康之	
E10	文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築	大阪市立大学	都市研究プラザ	佐々木 雅幸	
E11	アジア地域統合のための世界的人材育成拠点	早稲田大学	アジア太平洋研究科国際関係学専攻	天児 慧	
E12	「生存学」創成拠点	立命館大学	先端総合学術研究科先端総合学術専攻	立岩 真也	

※他の大学等(大学を含めた国内外の研究機関)と連携した拠点形成計画

## 2. グローバルCOEプログラム 平成19年度採択拠点中間評価結果一覧

### 総括評価結果

総括評価	生命科学		化学、 材料科学		情報、電気、 電子		人文科学		学際、複合、 新領域		5分野計	
	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合
現行の努力を継続することによって、当初目的を達成することが可能と判断される	11	85%	10	77%	8	62%	8	67%	5	42%	42	67%
当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される	2	15%	3	23%	5	38%	4	33%	7	58%	21	33%
このままでは当初目的を達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の適切なる変更が必要と判断される	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても当初目的の達成は困難と思われるので、拠点形成を継続するためには、助言等に沿って、当初目的を絞り込んだ上で当初計画を大幅に縮小することが必要と判断される	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても当初目的の達成は困難と思われるので、拠点形成を中止することが必要と判断される	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	13	100%	13	100%	13	100%	12	100%	12	100%	63	100%



## 2. グローバルCOEプログラム 平成19年度採択拠点中間評価結果一覧(総括評価内訳)

### 【生命科学】

現行の努力を継続することによって、当初目的を達成することが可能と判断される: 11件

拠点番号	拠点プログラム名	機関名	専攻等名	拠点リーダー名	連携先機関名(※)
A01	脳神経科学を社会へ還流する教育研究拠点	東北大学	医学系研究科医科学専攻	大隅 典子	
A02	生体調節シグナルの統合的研究	群馬大学	生体調節研究所	小島 至	秋田大学
A03	生体シグナルを基盤とする統合生命学	東京大学	医学系研究科機能生物学専攻	宮下 保司	
A04	生命時空間ネットワーク進化型教育研究拠点	東京工業大学	生命理工学研究科生命情報専攻	白髭 克彦	東京医科歯科大学、独立行政法人理化学研究所、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(アメリカ)、スクリプス研究所(アメリカ)、国立科学研究センター(フランス)
A05	システム生命科学の展開:生命機能の設計	名古屋大学	理学研究科生命理学専攻	近藤 孝男	
A06	生物の多様性と進化研究のための拠点形成	京都大学	理学研究科生物科学専攻	阿形 清和	
A07	高次生命機能システムのダイナミクス	大阪大学	生命機能研究科生命機能専攻	柳田 敏雄	
A08	統合的膜生物学の国際教育研究拠点	神戸大学	医学研究科医科学専攻	片岡 徹	
A09	フロンティア生命科学グローバルプログラム	奈良先端科学技術大学院大学	バイオサイエンス研究科分子生物学専攻	島本 功	
A10	個体恒常性を担う細胞運命の決定とその破綻	九州大学	システム生命科学府システム生命科学専攻	藤木 幸夫	
A13	In vivoヒト代謝システム生物学拠点	慶應義塾大学	医学研究科医学研究系専攻	末松 誠	カロリンスカ研究所(スウェーデン)、デューク大学(アメリカ)、ボストン大学(アメリカ)

※他の大学等(大学を含めた国内外の研究機関)と連携した拠点形成計画

当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される: 2件

拠点番号	拠点プログラム名	機関名	専攻等名	拠点リーダー名	連携先機関名(※)
A11	細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット	熊本大学	発生医学研究所	桑 昭苑	
A12	ピコバイオロジー:原子レベルの生命科学	兵庫県立大学	生命理学研究科生命科学専攻	吉川 信也	

※他の大学等(大学を含めた国内外の研究機関)と連携した拠点形成計画

## 2. グローバルCOEプログラム 平成19年度採択拠点中間評価結果一覧(総括評価内訳)

### 【化学、材料科学】

現行の努力を継続することによって、当初目的を達成することが可能と判断される: 10件

拠点番号	拠点プログラム名	機関名	専攻等名	拠点リーダー名	連携先機関名(※)
B03	材料インテグレーション国際教育研究拠点	東北大学	金属材料研究所	後藤 孝	
B04	理工連携による化学イノベーション	東京大学	理学系研究科化学専攻	中村 栄一	
B06	新たな分子化学創発を目指す教育研究拠点	東京工業大学	理工学研究科化学専攻	鈴木 啓介	独立行政法人理化学研究所
B07	国際ファイバー工学教育研究拠点	信州大学	総合工学系研究科生命機能・ファイバー工学専攻	平井 利博	
B08	分子性機能物質科学の国際教育研究拠点形成	名古屋大学	理学研究科物質理学専攻(化学系)	渡辺 芳人	
B09	物質科学の新基盤構築と次世代育成国際拠点	京都大学	工学研究科高分子化学専攻	澤本 光男	
B10	生命環境化学グローバル教育研究拠点	大阪大学	工学研究科生命先端工学専攻	福住 俊一	
B11	構造・機能先進材料デザイン教育研究拠点	大阪大学	工学研究科マテリアル生産科学専攻	掛下 知行	
B12	未来分子システム科学	九州大学	工学府物質創造工学専攻	君塚 信夫	
B13	「実践的化学知」教育研究拠点	早稲田大学	先進理工学研究科応用化学専攻	黒田 一幸	

※他の大学等(大学を含めた国内外の研究機関)と連携した拠点形成計画

当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される: 3件

拠点番号	拠点プログラム名	機関名	専攻等名	拠点リーダー名	連携先機関名(※)
B01	触媒が先導する物質科学イノベーション	北海道大学	工学研究科有機プロセス工学専攻	宮浦 憲夫	
B02	分子系高次構造体化学国際教育研究拠点	東北大学	理学研究科化学専攻	山口 雅彦	
B05	材料イノベーションのための教育研究拠点	東京工業大学	理工学研究科有機・高分子物質専攻	竹添 秀男	独立行政法人産業技術総合研究所、独立行政法人物質・材料研究機構光触媒材料センター

※他の大学等(大学を含めた国内外の研究機関)と連携した拠点形成計画

## 2. グローバルCOEプログラム 平成19年度採択拠点中間評価結果一覧(総括評価内訳)

### 【情報、電気、電子】

現行の努力を継続することによって、当初目的を達成することが可能と判断される: 8件

拠点番号	拠点プログラム名	機関名	専攻等名	拠点リーダー名	連携先機関名(※)
C01	知の創出を支える次世代IT基盤拠点	北海道大学	情報科学研究科コンピュータサイエンス専攻	有村 博紀	
C04	セキュアライフ・エレクトロニクス	東京大学	工学系研究科電気系工学専攻	保立 和夫	
C06	フォトニクス集積コアエレクトロニクス	東京工業大学	総合理工学研究科物理電子システム創造専攻	小山 二三夫	カリフォルニア大学バークレイ校(アメリカ)、ケンブリッジ大学(イギリス)
C07	インテリジェントセンシングのフロンティア	豊橋技術科学大学	工学研究科電子・情報工学専攻	石田 誠	
C08	知識循環社会のための情報学教育研究拠点	京都大学	情報学研究科社会情報学専攻	田中 克己	
C09	光・電子理工学の教育研究拠点形成	京都大学	工学研究科電子工学専攻	野田 進	
C11	次世代電子デバイス教育研究開発拠点	大阪大学	工学研究科電気電子情報工学専攻	谷口 研二	福井大学
C13	アンビエントSoC教育研究の国際拠点	早稲田大学	基幹理工学研究科情報理工学専攻	後藤 敏	

※他の大学等(大学を含めた国内外の研究機関)と連携した拠点形成計画

当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される: 5件

拠点番号	拠点プログラム名	機関名	専攻等名	拠点リーダー名	連携先機関名(※)
C02	情報エレクトロニクスシステム教育研究拠点	東北大学	工学研究科電気・通信工学専攻	安達 文幸	
C03	サイバニクス:人・機械・情報系の融合複合	筑波大学	システム情報工学研究科知能機能システム専攻	山海 嘉之	大阪大学
C05	計算世界観の深化と展開	東京工業大学	情報理工学研究科数理・計算科学専攻	渡辺 治	スイス連邦工科大学チューリッヒ校(スイス)、カリフォルニア大学サンディエゴ校(アメリカ)
C10	アンビエント情報社会基盤創成拠点	大阪大学	情報科学研究科情報ネットワーク学専攻	村田 正幸	
C12	アクセス空間支援基盤技術の高度国際連携	慶應義塾大学	理工学研究科総合デザイン工学専攻	大西 公平	ハーバード大学(アメリカ)、西安交通大学(中国)、国立中央理工学校リヨン校(フランス)

※他の大学等(大学を含めた国内外の研究機関)と連携した拠点形成計画

## 2. グローバルCOEプログラム 平成19年度採択拠点中間評価結果一覧(総括評価内訳)

### 【人文科学】

現行の努力を継続することによって、当初目的を達成することが可能と判断される: 8件

拠点番号	拠点プログラム名	機関名	専攻等名	拠点リーダー名	連携先機関名(※)
D01	心の社会性に関する教育研究拠点	北海道大学	文学研究科人間システム科学専攻	山岸 俊男	カリフォルニア大学サンタバーバラ校(アメリカ)
D02	死生学の展開と組織化	東京大学	人文社会系研究科基礎文化研究専攻	島蘭 進	
D03	共生のための国際哲学教育研究センター	東京大学	総合文化研究科超域文化科学専攻	小林 康夫	
D07	心が活きる教育のための国際的拠点	京都大学	教育学研究科教育科学専攻	子安 増生	
D08	コンフリクトの人文科学国際研究教育拠点	大阪大学	人間科学研究科人間科学専攻	小泉 潤二	
D09	論理と感性の先端的教育研究拠点形成	慶應義塾大学	社会学研究科心理学専攻	渡辺 茂	独立行政法人理化学研究所、ケンブリッジ大学(イギリス)、ウィーン大学(オーストリア)、ビーレフェルト大学(ドイツ)、エコール・ノルマル・シュペリエール(フランス)、エコール・ポリテクニク(フランス)
D10	演劇・映像の国際的教育研究拠点	早稲田大学	演劇博物館	竹本 幹夫	
D12	東アジア文化交渉学の教育研究拠点形成	関西大学	文学研究科文化交渉学専攻	陶 徳民	

※他の大学等(大学を含めた国内外の研究機関)と連携した拠点形成計画

当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される: 4件

拠点番号	拠点プログラム名	機関名	専攻等名	拠点リーダー名	連携先機関名(※)
D04	コーパスに基づく言語学教育研究拠点	東京外国語大学	総合国際学研究科言語文化専攻	峰岸 真琴	
D05	格差センシティブな人間発達科学の創成	お茶の水女子大学	人間文化創成科学研究科人間発達科学専攻	耳塚 寛明	
D06	テキスト布置の解釈学的研究と教育	名古屋大学	文学研究科人文学専攻	佐藤 彰一	
D11	日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点	立命館大学	アート・リサーチセンター	赤間 亮	ロンドン大学(イギリス)

※他の大学等(大学を含めた国内外の研究機関)と連携した拠点形成計画

## 2. グローバルCOEプログラム 平成19年度採択拠点中間評価結果一覧(総括評価内訳)

### 【学際、複合、新領域】

現行の努力を継続することによって、当初目的を達成することが可能と判断される:5件

拠点番号	拠点プログラム名	機関名	専攻等名	拠点リーダー名	連携先機関名(※)
E02	世界を先導する原子力教育研究イニシアチブ	東京大学	工学系研究科原子力国際専攻	岡 芳明	
E04	生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点	京都大学	東南アジア研究所	杉原 薫	
E06	乾燥地科学拠点の世界展開	鳥取大学	乾燥地研究センター	恒川 篤史	砂漠研究所(アメリカ)、国際乾燥地農業研究センター(シリア)
E07	化学物質の環境科学教育研究拠点	愛媛大学	沿岸環境科学研究センター	田辺 信介	
E08	放射線健康リスク制御国際戦略拠点	長崎大学	医歯薬学総合研究科放射線医療科学専攻	山下 俊一	

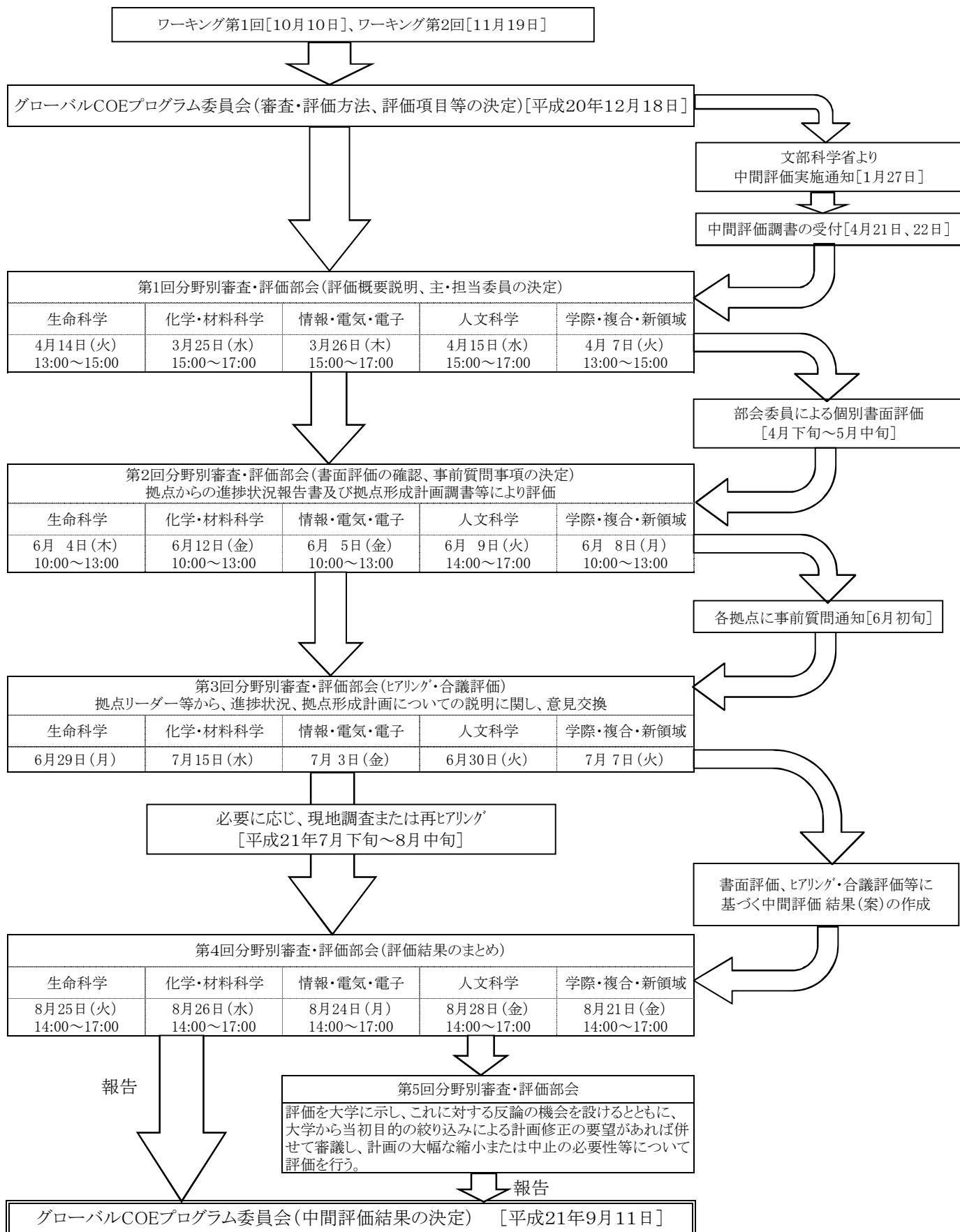
※他の大学等(大学を含めた国内外の研究機関)と連携した拠点形成計画

当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される:7件

拠点番号	拠点プログラム名	機関名	専攻等名	拠点リーダー名	連携先機関名(※)
E01	新世紀世界の成長焦点に築くナノ医工学拠点	東北大学	医工学研究科医工学専攻	山口 隆美	
E03	アジア視点の国際生態リスクマネジメント	横浜国立大学	環境情報研究院自然環境と情報部門	松田 裕之	国立環境研究所
E05	医・工・情報学融合による予測医学基盤創成	大阪大学	臨床医工学融合研究教育センター	野村 泰伸	
E09	健康長寿科学教育研究の戦略的新展開	静岡県立大学	生活健康科学研究科食品栄養科学専攻	今井 康之	
E10	文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築	大阪市立大学	都市研究プラザ	佐々木 雅幸	
E11	アジア地域統合のための世界的人材育成拠点	早稲田大学	アジア太平洋研究科国際関係学専攻	天児 慧	
E12	「生存学」創成拠点	立命館大学	先端総合学術研究科先端総合学術専攻	立岩 真也	

※他の大学等(大学を含めた国内外の研究機関)と連携した拠点形成計画

### 3. 平成21年度グローバルCOEプログラム委員会等の日程について



## 平成21年度グローバルCOEプログラム委員会委員名簿

- |   |       |                                   |
|---|-------|-----------------------------------|
| ○ | 安西祐一郎 | 慶応義塾学事顧問・理工学部教授                   |
|   | 小野元之  | 独立行政法人日本学術振興会理事長                  |
|   | 勝木元也  | 大学共同利用機関法人自然科学研究機構理事              |
|   | 金澤一郎  | 宮内庁長官官房皇室医務主管                     |
|   | 木村孟   | 文部科学省顧問                           |
|   | 草間朋子  | 大分県立看護科学大学理事長、学長                  |
|   | 小宮山宏  | 株式会社三菱総合研究所理事長                    |
|   | 佐々木毅  | 学習院大学法学部教授                        |
|   | 佐々木雄太 | 愛知県立大学長                           |
|   | 白井克彦  | 早稲田大学総長                           |
|   | 鈴木厚人  | 大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構長          |
|   | 鈴木基之  | 放送大学教授                            |
|   | 鈴木興太郎 | 早稲田大学政治経済学術院教授                    |
|   | 立本成文  | 大学共同利用機関法人人間文化研究機構<br>総合地球環境学研究所長 |
|   | 田中隆治  | サントリー株式会社技術監                      |
|   | 田中英彦  | 情報セキュリティ大学院大学情報セキュリティ研究科長         |
|   | 玉尾皓平  | 独立行政法人理化学研究所基幹研究所長                |
|   | 田村和子  | 科学ジャーナリスト                         |
|   | 戸張規子  | 慶應義塾大学名誉教授                        |
|   | 鳥居泰彦  | 日本私立学校振興・共済事業団理事長                 |
|   | 中島尚正  | 学校法人海陽学園海陽中等教育学校長                 |
|   | 納谷廣美  | 財団法人大学基準協会長、明治大学長                 |
| ◎ | 野依良治  | 独立行政法人理化学研究所理事長                   |
|   | 平野眞一  | 独立行政法人大学評価・学位授与機構長                |
|   | 福山秀敏  | 東京理科大学総合研究機構長、理学部教授               |
|   | 松本紘   | 京都大学総長                            |

(計 26名)

◎印は、委員長を示す

○印は、副委員長を示す

# 平成20年度グローバルCOEプログラム委員会

## ワーキング・グループ委員名簿

- |   |         |                                   |
|---|---------|-----------------------------------|
| ○ | 勝 木 元 也 | 大学共同利用機関法人自然科学研究機構理事              |
|   | 金 澤 一 郎 | 宮内庁長官官房皇室医務主管                     |
|   | 鈴 木 基 之 | 放送大学教授                            |
|   | 鈴 村 興太郎 | 早稲田大学政治経済学術院教授                    |
| ◎ | 立 本 成 文 | 大学共同利用機関法人人間文化研究機構<br>総合地球環境学研究所長 |
|   | 田 中 英 彦 | 情報セキュリティ大学院大学情報セキュリティ研究科長         |
|   | 玉 尾 皓 平 | 独立行政法人理化学研究所基幹研究所長                |
|   | 戸 張 規 子 | 慶應義塾大学名誉教授                        |
|   | 中 島 尚 正 | 学校法人海陽学園海陽中等教育学校長                 |
|   | 福 山 秀 敏 | 東京理科大学総合研究機構長、理学部教授               |

(計 10名)

◎印は、座長を示す

○印は、副座長を示す



## グローバルCOEプログラム分野別審査・評価部会名簿(生命科学)

### (分属委員)

◎ 勝 木 元 也 大学共同利用機関法人自然科学研究機構理事

### (専門委員)

阿久津 秀 雄 大阪大学蛋白質研究所客員教授  
大 島 範 子 東邦大学理学部長、教授  
甲 斐 知恵子 東京大学医科学研究所教授  
○ 黒 岩 常 祥 立教大学極限生命情報センター、理学研究科教授  
笹 月 健 彦 国立国際医療センター名誉総長  
篠 崎 一 雄 独立行政法人理化学研究所植物科学研究センター長  
関 谷 剛 男 三菱化学生命科学研究所取締役所長  
竹 内 俊 郎 東京海洋大学理事・副学長  
谷 口 直 之 大阪大学産業科学研究所寄附研究部門教授  
永 井 和 夫 中部大学応用生物学部教授  
鍋 島 陽 一 京都大学大学院医学研究科教授  
平 井 篤 志 名城大学農学部教授  
伏 木 亨 京都大学大学院農学研究科教授  
眞 山 滋 志 神戸大学名誉教授  
山 本 雅 之 東北大学大学院医学系研究科長、教授  
吉 田 光 昭 東京大学大学院新領域創成科学研究科客員教授  
渡 邊 公 綱 独立行政法人産業技術総合研究所  
バイオメディシナル情報研究センター研究技術総括

(計18名)

◎印は、部会長を示す

○印は、副部会長を示す

## グローバルCOEプログラム分野別審査・評価部会名簿(化学、材料科学)

### (分属委員)

◎ 玉 尾 皓 平 独立行政法人理化学研究所基幹研究所長

### (専門委員)

秋 鹿 研 一 放送大学東京世田谷学習センター所長  
岡 田 益 男 東北大学副学長、大学院工学研究科教授  
北 川 禎 三 財団法人豊田理化学研究所フェロー  
○ 木 村 茂 行 社団法人未踏科学技術協会理事長  
楠 本 正 一 財団法人サントリー生物有機科学研究所長  
齋 藤 軍 治 名城大学総合研究所教授  
齋 藤 清 機 放送大学岡山学習センター所長  
白 木 靖 寛 東京都市大学副学長  
十 倉 好 紀 東京大学大学院工学系研究科教授  
新 原 皓 一 長岡技術科学大学長  
西 信 之 大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所  
研究総主幹、副所長  
板 東 義 雄 独立行政法人物質・材料研究機構  
国際ナノアーキテクトニクス研究拠点最高運営責任者  
藤 嶋 昭 財団法人神奈川科学技術アカデミー理事長  
水 谷 惟 恭 国立東京工業高等専門学校長  
御園生 誠 独立行政法人製品評価技術基盤機構顧問  
村 井 眞 二 奈良先端科学技術大学院大学理事、副学長  
安 井 至 独立行政法人製品評価技術基盤機構理事長  
山 本 尚 シカゴ大学化学教室教授

(計19名)

◎印は、部会長を示す

○印は、副部会長を示す

## グローバルCOEプログラム分野別審査・評価部会名簿(情報、電気、電子)

### (分属委員)

◎ 田 中 英 彦 情報セキュリティ大学院大学情報セキュリティ研究科長

### (専門委員)

浅 野 哲 夫 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科教授  
伊 澤 達 夫 東京工業大学理事、副学長  
岩 田 彰 名古屋工業大学大学院おもひ領域創成シミュレーション工学専攻教授  
内 田 啓一郎 神奈川大学理学部教授  
大 泊 巖 早稲田大学名誉教授  
榊 裕 之 豊田工業大学副学長  
白 井 良 明 立命館大学情報理工学部教授  
鈴 木 健 二 電気通信大学電気通信学部教授  
高 柳 英 明 東京理科大学理事、総合研究機構教授  
土 井 美和子 株式会社東芝研究開発センター首席技監  
中 沢 正 隆 東北大学電気通信研究所教授  
並 木 淳 治 東海大学専門職大学院組込み技術研究科教授  
○ 深 尾 正 東京工業大学名誉教授  
松 山 隆 司 京都大学大学院情報学研究科教授  
安 村 通 晃 慶應義塾大学環境情報学部教授  
米 澤 明 憲 東京大学大学院情報理工学系研究科教授

(計17名)

◎印は、部会長を示す

○印は、副部会長を示す

## グローバルCOEプログラム分野別審査・評価部会名簿(人文科学)

### (分属委員)

◎ 戸 張 規 子 慶應義塾大学名誉教授

### (専門委員)

秋 田 茂 大阪大学大学院文学研究科教授  
有 本 章 比治山大学高等教育研究所長、教授  
池 田 知 久 大東文化大学文学部教授  
泉 邦 寿 上智大学外国語学部教授  
内 田 伸 子 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授  
岡 市 廣 成 同志社大学名誉教授  
鬼 崎 信 好 福岡県立大学人間社会学部長、  
大学院人間社会学研究科長、教授  
北 川 東 子 東京大学大学院総合文化研究科教授  
○ Christian DANIELS 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授  
黒 崎 政 男 東京女子大学現代教養学部教授  
黒 田 日出男 立正大学文学部教授  
塩 川 徹 也 東京大学名誉教授  
館 昭 桜美林大学大学院大学アドミニストレーション研究科長、教授  
土 屋 俊 千葉大学文学部教授  
日比谷 潤 子 国際基督教大学教養学部教授、学務副学長  
藤 幡 正 樹 東京藝術大学大学院映像研究科長、教授

(計17名)

◎印は、部会長を示す

○印は、副部会長を示す

## グローバルCOEプログラム分野別審査・評価部会名簿(学際、複合、新領域)

### (分属委員)

- ◎立本成文 大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所長  
○鈴木基之 放送大学教授

### (専門委員)

- 安藤恒也 東京工業大学大学院理工学研究科教授  
池田元美 北海道大学大学院地球環境科学院教授  
石原宏 東京工業大学大学院総合理工学研究科教授  
伊藤靖彦 同志社大学理工学部教授  
今村文彦 東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター教授  
井村秀文 名古屋大学大学院環境学研究科教授  
内海英雄 九州大学副学長、薬学研究院教授  
大園成夫 東京電機大学未来科学部長、教授  
岡田光正 広島大学大学院工学研究科教授  
加藤剛 龍谷大学社会学部教授  
上野川修一 日本大学生物資源科学部教授  
河野俊行 九州大学大学院法学研究院教授  
小館香椎子 日本女子大学学長特別補佐  
小長谷有紀 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館民族社会研究部教授  
小原雄治 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構理事  
佐藤俊輔 藍野大学医療保健学部教授  
柴山守 京都大学東南アジア研究所教授  
武内和彦 東京大学大学院農学生命科学研究科教授  
田村照子 文化女子大学大学院生活環境学研究科長、教授  
津本忠治 独立行政法人理化学研究所脳科学総合研究センターシニアチームリーダー  
東倉洋一 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所副所長、教授  
中田毅 東京電機大学情報環境学部教授  
野口京子 文化女子大学現代文化学部教授  
深見希代子 東京薬科大学生命科学部教授  
藤田博之 東京大学生産技術研究所教授  
村井吉敬 早稲田大学アジア研究機構教授  
望月孝晏 兵庫県立大学高度産業科学技術研究所教授  
本島修 大学共同利用機関法人自然科学研究機構核融合科学研究所名誉教授  
森田昌敏 愛媛大学農学部教授  
山村研一 熊本大学発生医学研究所教授  
和田英太郎 独立行政法人海洋研究開発機構地球環境変動領域物質循環プログラム特任上席研究員

(計 33名)

◎印は、部会長を示す ○印は、副部会長を示す

# グローバルCOEプログラム評価要項

平成20年12月18日  
グローバルCOEプログラム委員会

研究拠点形成費等補助金（以下、「補助金」という。）により実施されるグローバルCOEプログラム事業の中間・事後評価は、この評価要項により行うものとする。

## 1. 評価の目的

### 【中間評価】

補助金によるグローバルCOEプログラム事業の進捗状況等を専門家や有識者により確認し、事業の効果的な実施を図り、拠点形成の目的が十分達成されるよう適切な助言を行うとともに、国際的に卓越した教育研究拠点として真に将来の発展が見込まれるかを評価し、その結果に基づいて補助金の適正配分に資することを目的とする。

### 【事後評価】

設定された目的に沿って拠点形成計画が効果的に達成されたか、また、中間評価結果による留意事項への対応が適切に行われたかについて評価するとともに、その結果を各拠点に示すことにより、補助事業終了後の教育研究活動の持続的展開及びその水準の向上とさらなる発展に資するため、適切な助言を行うことを目的とする。また、各拠点の活動の成果等を明らかにし、社会に公表することにより、各拠点での教育研究活動が広く国民の理解と支援が得られるよう促進していくことを併せて目的とする。

グローバルCOEプログラムは、我が国の大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、国際的に卓越した研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、もって、国際競争力のある大学づくりを推進することを目的とする。

## 2. 評価の時期

グローバルCOEプログラムに採択された各教育研究拠点（以下、「各拠点」という。）の補助事業について、2年経過後に中間評価、補助事業終了後に事後評価、必要に応じてフォローアップを実施する。

## 3. 評価委員

評価を担当する委員の構成は、次のとおりとする。

- ① 各拠点の選定に係る審査状況、審査経過等を熟知している専門家や有識者
- ② 各拠点の選定に携わっていない者で、専門的観点から高い知見を有する専門家や有識者

#### 4. 評価の実施

補助事業の進捗状況や達成度等の評価を行うに当たり、当該評価の公正さ、信頼性を確保し、実効性のある評価を実施するために、評価項目、評価方法（評価資料、評価過程・手続等）を次のとおりとする。

##### (1) 評価項目

###### ① 運営状況

###### 【中間評価】

###### [大学の将来構想と組織的な支援]

- ・大学全体の将来構想において、拠点形成計画が十分戦略的なものとして位置づけられ、機能しているか
- ・学長を中心としたマネジメント体制の下、国際的に卓越した教育研究拠点形成への重点的取組みが行われているか

###### [拠点形成全体]

- ・国際的に卓越した教育研究拠点形成計画全体の当初目的に沿って、計画は着実に進展しているか
- ・拠点形成のための運営マネジメント体制が生まれ、拠点として機能しているか
- ・国際競争力のある大学づくりに資するための取組みを行っているか
- ・他の大学等と連携した取組みについては、拠点形成において、その連携が必要不可欠なものとして有効に機能しているか

###### (人材育成面)

- ・学生が将来、有為な人材として活躍できるよう、必要な指導体制、教育プログラム等を措置し、機能しているか
- ・若手研究者がその能力を十分に発揮できるような仕組みを措置し、機能しているか
- ・国際的に活躍できる人材を育成するための工夫をし、機能しているか
- ・他の大学等と連携した取組みについては、連携が有効に機能しているか

###### (研究活動面)

- ・国際的な研究活動が実施されているか、または、我が国固有の分野もしくは、諸外国に例を見ない独創的な研究アプローチで、諸外国に積極的な情報発信が行われているか
- ・拠点形成計画に参画した研究者が、実質的に協力・連携し、拠点形成に向けて十分貢献できる体制となっているか
- ・研究活動において、新たな学術的知見の創出や特筆すべきことがあったか
- ・他の大学等と連携した取組みについては、連携が有効に機能しているか

###### [補助金の適切かつ効果的使用]

- ・補助金は適切かつ効果的に使用され、計画されているか

### 【事後評価】

#### [大学の将来構想と組織的な支援]

- ・大学全体の将来構想において、拠点形成計画が十分戦略的なものとして位置づけられ、機能したか
- ・学長を中心としたマネジメント体制の下、国際的に卓越した教育研究拠点形成への重点的取組みが行われたか

#### [拠点形成全体]

- ・国際的に卓越した教育研究拠点形成計画全体の目的は達成されたか
- ・拠点形成のための運営マネジメント体制が生まれ、拠点として機能したか
- ・国際競争力のある大学づくりに資することができたか
- ・他の大学等と連携した取組みについては、拠点形成において、その連携が必要不可欠なものとして有効に機能したか

#### (人材育成面)

- ・人材育成において、具体的にどのような若手研究者が育成され、また、教育研究拠点の形成にどれだけ寄与したか
- ・若手研究者がその能力を十分に発揮できるような仕組みを措置し、機能したか
- ・国際的に活躍できる人材を育成するための工夫をし、機能したか
- ・他の大学等と連携した取組みについては、連携が有効に機能したか

#### (研究活動面)

- ・国際的な研究活動が実施されたか、または、我が国固有の分野もしくは、諸外国に例を見ない独創的な研究アプローチで、諸外国に積極的な情報発信が行われたか
- ・拠点形成計画に参画する研究者が、実質的に協力・連携し、拠点形成に向けて十分貢献できる体制が構築され、機能したか
- ・研究活動において、新たな分野の創成や学術的知見等があったか
- ・他の大学等と連携した取組みについては、連携が有効に機能したか

#### [補助金の適切かつ効果的使用]

- ・補助金は、適切かつ効果的に使用されたか

## ② 留意事項への対応

### 【中間評価】

- ・グローバルCOEプログラム委員会の審査結果による留意事項への対応を適切に行っているか

### 【事後評価】

- ・グローバルCOEプログラム委員会の審査結果・中間評価結果による留意事項への対応を適切に行ったか



### ③ 今後の展望

#### 【中間評価】

- ・ 今後、拠点形成を進める上で改善点を検討し、適切で、妥当な改善を期待できるか
- ・ COEとして、研究を通じた人材育成の評価、国際的評価、国内の関連する学会での評価、産学官連携の視点からの評価、社会貢献等が期待できるか
- ・ 補助事業が終了した後も、国際的に卓越した教育研究拠点としての継続的な教育研究活動が自主的・恒常的に行われるための具体的な支援を考慮しているか、または、すでに着手しているか
- ・ 他の大学等と連携した取組みについては、事業終了後の連携のあり方等について、考慮されているか

#### 【事後評価】

- ・ 補助事業が終了した後も、国際的に卓越した教育研究拠点としての継続的な教育研究活動が自主的・恒常的に行われるための具体的な支援を考慮しているか、または、すでに着手しているか
- ・ 他の大学等と連携した取組みについては、事業終了後の連携のあり方等について、考慮されているか

### ④ その他

#### 【中間評価】

- ・ 学内外に対しどのようなインパクト等を与えたか

#### 【事後評価】

- ・ 国際的に卓越した教育研究拠点の形成が、学内外にどのような影響を与えたか

## (2) 評価方法

#### 【中間評価】

評価は、分野別審査・評価部会（各年度の評価実施部会は6．評価体制に記載）において書面及びヒアリング・合議評価により実施される。（7－1．評価手順を参照）

各審査・評価部会は、評価の重複を避けるよう既に行われた審査結果を活用し、評価対象に応じた適切な方法により、評価目的が達成されるよう、中立・公正かつ効率的・効果的な評価を行う。

#### 【事後評価】

評価は、分野別審査・評価部会（各年度の評価実施部会は6．評価体制に記載）において書面・合議評価及び必要に応じ現地調査・ヒアリング・合議評価により実施される。

（7－2．評価手順を参照）

各審査・評価部会は、評価の重複を避けるよう既に行われた中間評価結果を活用し、評価対象に応じた適切な方法により、評価目的が達成されるよう、中立・公正かつ効率的・効果的な評価を行う。

### ① 書面・合議評価

評価委員は、各拠点について次の評価資料により個別評価を行い、合議により評価を行う。

#### 【中間評価】

- ・ グローバルCOEプログラム中間評価用調書
- ・ 進捗状況報告書・拠点形成計画調書等(主な発表論文の抜刷を添付)
- ・ 採択時の審査結果表
- ・ 拠点形成計画調書（採択時の審査結果表に基づく修正版）

#### 【事後評価】

- ・ 事業結果報告書（5年間まとめ）(主な発表論文の抜刷を添付)
- ・ 採択時の審査結果表及び中間評価結果表
- ・ 拠点形成計画調書（採択時の審査結果表に基づく修正版）
- ・ 進捗状況報告書・拠点形成計画調書（中間評価結果表に基づく修正版）

### ② 合議評価

#### 【中間評価】

各審査・評価部会において、評価委員は上記の評価資料等を基礎にした各拠点の説明に対し、個々の書面評価に基づきヒアリングを行い、その後合議評価をし、拠点形成（補助事業）の今後の進め方や助言等をまとめる。

なお、ヒアリング・合議評価を行った上で、必要に応じ、a)学長同行の再ヒアリング、b)現地調査を実施する。

#### 【事後評価】

各審査・評価部会において、評価委員は上記の評価資料等を基礎にした各拠点の説明に対し、個々の書面評価に基づき合議評価を行い、必要と判断した拠点に対しては現地調査またはヒアリングを実施した上で、総括評価や助言等をまとめる。

### ③ 評価の決定

#### 【中間評価】

各審査・評価部会は、各拠点の評価結果をまとめる際に、当初目的の達成は困難であると判断された拠点については、反論等の機会を設けて、当初目的の絞り込みによる計画の大幅な縮小又は中止の必要性等について評価を行う。

グローバルCOEプログラム委員会は、各審査・評価部会における各拠点の評価結果について全体調整を行い、各拠点の評価結果を決定する。

#### 【事後評価】

各審査・評価部会は、各拠点の評価結果をまとめ、各拠点に対し事前にその内容を開示する。

各拠点から、開示された評価結果に対して意見の申立てがあった場合には、その申立て内容について、再度審議を行い、評価結果をまとめる。

グローバルCOEプログラム委員会は、各審査・評価部会における各拠点の評価結果について全体調整を行い、各拠点の評価結果を決定する。

## 5. その他

### (1) 評価結果の反映・活用

#### 【中間評価】

グローバルCOEプログラム委員会は、決定した各拠点の中間評価結果を文部科学省に報告し、文部科学省が中間評価の結果に応じて、国際的に卓越した教育研究拠点として真に将来の発展が見込める拠点への支援を重点化しつつ行う4年次以降の補助金の適正配分（増額、減額又は廃止等）に資する。また、拠点形成の推進に向けて適切な助言を行うために、各拠点に対しこの評価結果を開示する。

#### 【事後評価】

グローバルCOEプログラム委員会は、決定した各拠点の事後評価結果を文部科学省に報告するとともに、補助事業終了後の教育研究活動の持続的展開に資するため、各拠点に対し開示する。また、評価終了後、各拠点の活動の成果等と事後評価結果（必要に応じ、拠点からの意見申立ての内容を併せて）を報告書として取りまとめ、広く社会に公開する。

### (2) 評価の公開等

- ① 評価に係る審議は非公開とし、その経過は他に漏らさない。
- ② 評価終了後、各拠点の中間・事後評価結果及び進捗状況等をホームページへの掲載等により公開する。

### (3) 利害関係者の排除

#### 1) 範囲

- ① 委員が当該大学に専任又は兼任として在職（就任予定を含む。）し、又は過去3年以内に在職していた場合
- ② 委員が当該大学の役員として在職（就任予定を含む。）している場合
- ③ その他、委員が中立・公正に評価を行うことが困難であると判断される場合

#### 2) 運用

委員は上記に留意し、利益相反の事実あるいは可能性がある場合には速やかに申し出るとともに、当該事案についての評価（書面評価、ヒアリング等）を行わないこととし、会議においても当該事案に関する個別審議の際は退席し、議論や判断に加わらないこととする。

（その他委員が中立・公正に評価を行うことが困難であると判断される場合の例）

委員が、当該プログラムの拠点リーダーとの関係において、次に掲げる例示に該当すると

自ら判断する場合は、評価に加わらないこととする。

- ・親族関係、もしくはそれと同等の親密な個人的関係
- ・密接な師弟関係

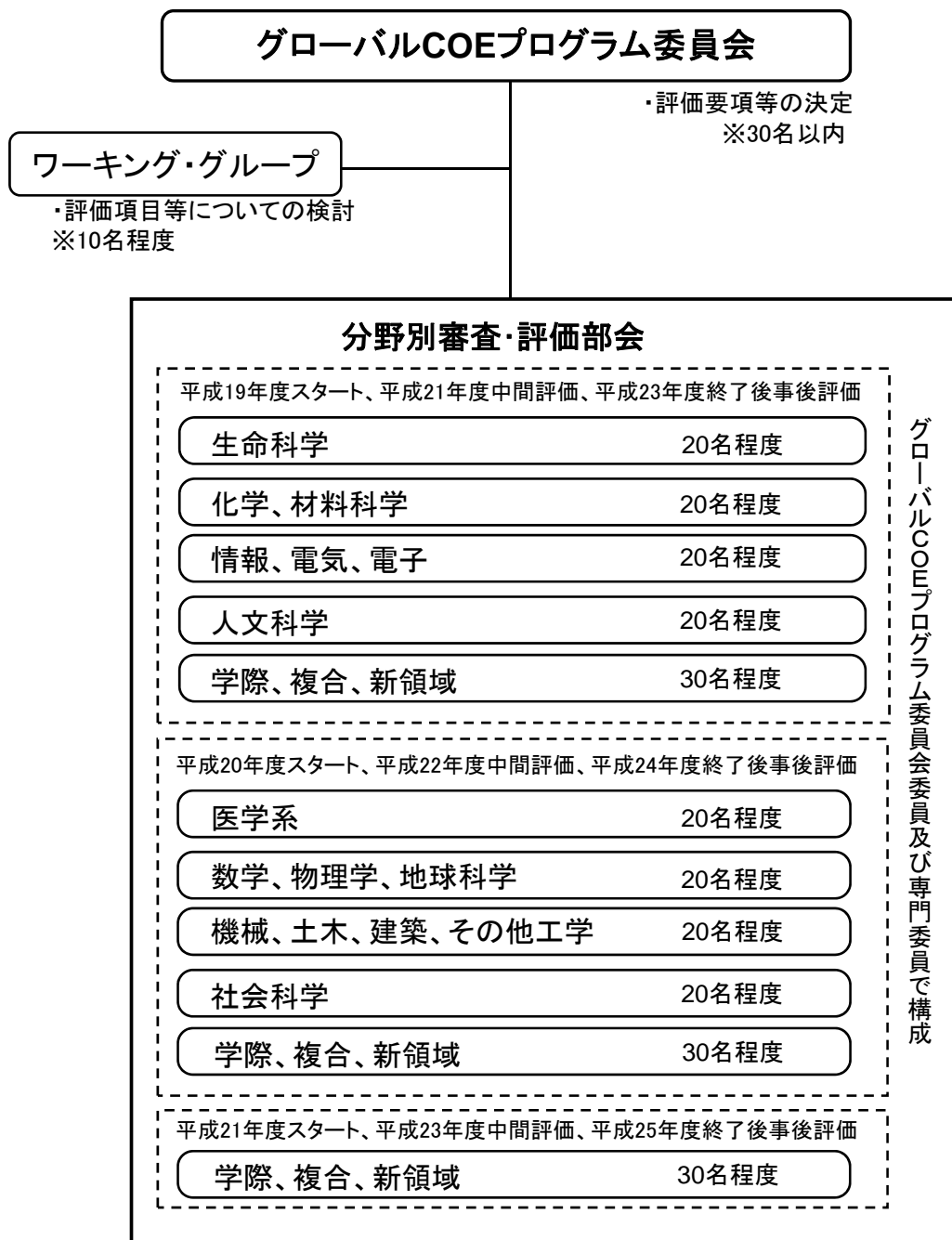
#### (4)フォローアップ

各審査・評価部会は、中間評価結果を受けての対応状況について、必要に応じ、その状況を確認することができる。

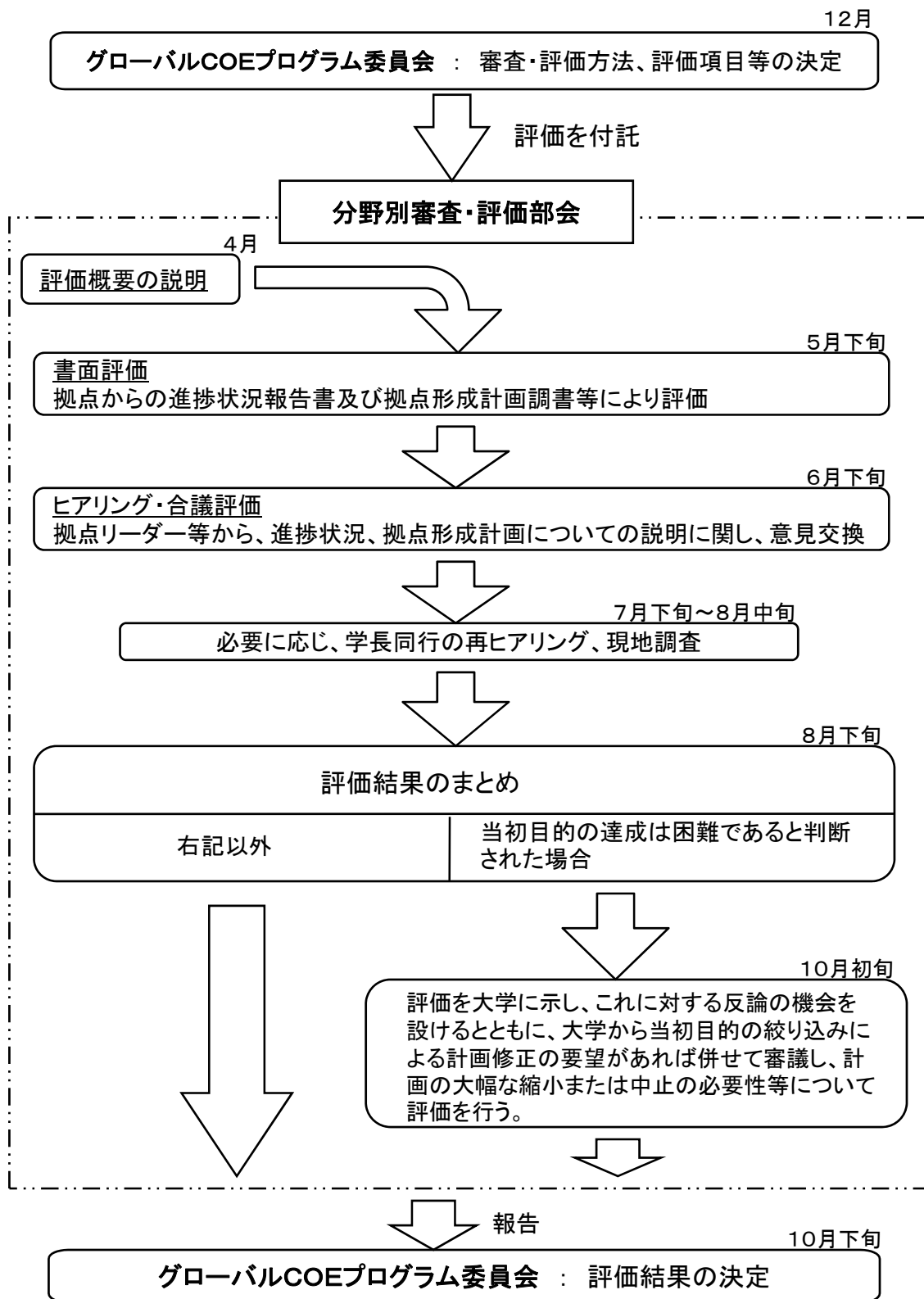
#### (5)その他

この要項に定めるもののほか、評価の実施に関し必要な事項は別に定める。

## 6. 評価体制



7-1. 評価手順  
《中間評価》



## 7-2. 評価手順

《事後評価》

グローバルCOEプログラム委員会：審査・評価方法、評価項目等の決定



分野別審査・評価部会

6月下旬～8月上旬

書面・合議評価：学長・拠点リーダーからの事業結果報告書等により評価

8月下旬～9月上旬

必要に応じ、現地調査またはヒアリング

9月中旬～9月下旬

評価結果のまとめ

10月上旬

評価結果を対象拠点に事前開示

10月中旬

評価結果に対する意見申立てがあった場合

10月下旬

意見申立て内容の審議・評価結果のまとめ

↓ 報告

11月上旬

グローバルCOEプログラム委員会：評価結果の決定

## 【生命科学】

### A03「生体シグナルを基盤とする統合生命学」

#### 東京大学医学系研究科機能生物学専攻

活発な活動を展開しており、大学院学生、研究成果は質量とも極めて高く、先端的なプログラムとなっている。また、全国のグローバル COE プログラム拠点間の横の連携に尽力したことは評価できる。

人材育成について、大学院学生、若手研究者が国際的に評価の高い研究を担い、国際若手ワークショップやリトリートを開催するなど、国際交流にも積極的に取り組み、充実した人材育成の取り組みとなっている。

研究活動について、生命科学系の協働により、極めて高い研究が展開されている。また、学生の能力を積極的に引き出そうとしており、その成果が現れつつある。

### A10「個体恒常性を担う細胞運命の決定とその破綻」

#### 九州大学システム生命科学府システム生命科学専攻

拠点リーダーを中心に精力的に拠点が運営されており、理医連携教育、国際化に向けた取り組みを行っている。

人材育成について、理医連携教育は優れてユニークな教育で、その努力には見るべきものがある。また、海外との接触を盛んにしながら、世界をリードする独自の考え方、ユニークな研究成果を生み出す若手研究者の輩出に取り組んでおり、将来の国際競争力の創出に繋がると考えられる。

研究活動について、海外の研究グループと活発な共同研究を行い、国際的な研究活動を展開するなど、精力的な活動を行い、多くの優れた研究成果を発表している。また、事業推進担当者の積極的な技術的支援によりポストゲノム研究センター、幹細胞研究センターが運営され、技術室、教育・研究支援センターも新たに整備されており、実質的な協力・連携体制を築く基盤となっている。



## 【化学、材料科学】

### B06「新たな分子化学創発を目指す教育研究拠点」

#### 東京工業大学理工学研究科化学専攻

拠点リーダーと副リーダーを中心に拠点は効率よく運営され、事業推進担当者は、事務業務などに過大な力を割くことなく、本来の研究・教育に大部分の力を注いでいる。

人材育成について、比較的狭い専門に偏りがちな従来型の大学院教育に複眼的視点を導入するため、独自に考案されたクラスター制度が期待以上に機能し、大学院学生の積極性を呼び覚まし、自発的にクラスター間共同研究活動も始まっている。また、本事業の開始とともに協力して若手研究者を育成するという共通の意識が教員に醸成されている。

研究活動について、これまでも既に優れた研究成果をあげ、競争的資金を獲得してオリジナリティの高い活発な研究を続けるとともに、国内外の第一線の研究機関との協力も成果をあげている。

### B08「分子性機能物質科学の国際教育研究拠点形成」

#### 名古屋大学理学研究科物質理学専攻（化学系）

教員、大学院学生双方の負担を軽減するための適切な拠点運営が行われ、豊富で高度な教育・研究事業を遂行している。また、海外の大学との連携についても、教員や大学院学生の交流を活発に行っている。

人材育成について、「国際化学特論」や「特別化学講義（社会と科学）」など、視野の広い大学院学生を生む教育プログラムの遂行、また、留学生 RA への経済支援や若手助教に対する国際競争力向上の支援事業（外国大学での授業講義）などを行っている。

研究活動について、比較的若い研究者を含む事業推進担当者には、国際評価の高い研究者が多く、多くの優れた成果があがっている。また、部局を越えた理工連携の実現、グループ化や国際事業の実施などが進行している。

## 【情報、電気、電子】

### C06 「フォトニクス集積コアエレクトロニクス」

#### 東京工業大学総合理工学研究科物理電子システム創造専攻

拠点の運営マネジメントを強化するために、マネージングプロフェッサーを採用するなど、進捗状況は極めて良好である。

人材育成について、「電気情報系リーダー育成コース」を設置し、RA 制度、メンター制度、コ・アドバイザー制度、学外審査制度を整え、大学院学生が能力を発揮しやすいようにし、また、国際的な人材育成についても、「海外特別実習制度」を設け、大学院学生を海外に派遣し、彼らのモチベーションを高めるのに役立っているなど、着実に効果が上がっている。

研究活動について、共同研究、他プロジェクトとの連携研究が効果的に機能し、発表論文なども多数あり、独創的な研究成果を積極的に発信している。

### C09 「光・電子理工学の教育研究拠点形成」

#### 京都大学工学研究科電子工学専攻

海外の著名な研究者の評価、外部評価委員会など、実質的な拠点活性化策を立案・実施し、光・電子理工学教育研究センターを中心に効率的な運営を行っている。また、産学官連携も順調に推移している。

人材育成について、副指導教員制、セミナー道場、若手国際シンポジウムなど数々の実効的な施策を行い、また、ロンドン大学、ケンブリッジ大学、カリフォルニア工科大学などと国際共同研究ネットワークの構築を推進しており、良好に推移している。

研究活動について、光閉じ込め効果を持つ共振器の Q 値の世界記録の更新、種々の色を発光できるデバイスの実現、高電圧に耐える MOSFET などの多くの世界的成果をあげており、新知見も十分に得られている。

## 【人文科学】

### D01 「心の社会性に関する教育研究拠点」

#### 北海道大学文学研究科人間システム科学専攻

社会科学実験センターが教育研究のインフラ基盤として十分な機能を発揮しており、本センター長を兼ねる拠点リーダーと教育・研究それぞれを統括する副リーダーとともに機動的に拠点を運営している。

人材育成について、「正統的周辺参加」という若手研究者育成理念の下で、コア・カリキュラムを基に、個々の大学院学生に相応しい教育プログラムを作成・実施し、教育と研究の両面で成果をあげている。また、カリフォルニア大学サンタバーバラ校との連携は、若手研究者の研究交流や国際的ネットワークの形成など、世界的視野を持つ研究者の育成に十分機能している。

研究活動について、本拠点が展開する「適応とマイクロ＝マクロ・ダイナミックスの概念を軸とする“心の社会性”へのアプローチ」は、世界をリードする独創的アプローチであり、また、事業推進担当者や連携研究機関の研究者間の連携協働体制も確立し、若手研究者を含め多くのインパクトのある研究成果を公表するなど、活発な研究活動を行っている。

### D10 「演劇・映像の国際的教育研究拠点」

#### 早稲田大学演劇博物館

大学にある演劇博物館を基盤としたユニークな教育・研究拠点として、国際的な演劇研究の中で、日本を代表する拠点形成となっている。

人材育成について、国際的な拠点形成に相応しく、グローバル COE 研究員として世界の博士後期課程学生を公募するなど、他大学からも広く若手研究者を受け入れている。

研究活動面については、演劇研究と映像研究を統合する視点と方法の構築が期待される。

## 【学際、複合、新領域】

### E04「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」

#### 京都大学東南アジア研究所

大学院アジア・アフリカ地域研究研究科にグローバル地域研究専攻、持続型生存基盤論講座を新設、ワーキングペーパーの発刊、新規に教授ポストを配置するなど、戦略的な拠点形成が図られている。

人材育成について、グローバル地域研究専攻の新設、フィールドワークを主体とする学生の支援など、大きく進展している。

研究活動について、「生存基盤指数」の開発、「地球圏」「生命圏」「人間圏」との交錯の中で成立する「生存圏」という新たな領域とされる知見の提示など、研究面での新たな挑戦とその進展があった。また、国際学会からの基調招待講演、国内での学会賞、査読付き論文数の増加などの面でも顕著な成果が出ている。

### E07「化学物質の環境科学教育研究拠点」

#### 愛媛大学沿岸環境科学研究センター

「生物環境試料バンク」の構築を軸として、5つの人材育成プログラムと3つのサブテーマを組み合わせた環境科学教育研究拠点を進展させ、また、若手研究員の処遇や博士後期課程学生の確保などの問題点についても真摯に対応している。

人材育成について、若手研究者の国内外での高い評価、ポスター賞などの獲得、拠点リーダーの環境教育国際賞の受賞と、高い評価を得ている。また、多数の若手研究者を輩出し、民間への就職が順調に機能し始めている。

研究活動について、生物環境試料バンクの充実は、国際的なCOEとして大きく貢献しており、論文発表のみならず、受賞や著作等の発表等、特に拠点リーダーは精力的に活動し、また、若手研究員が筆頭著者の優れた論文も出ているなど成果があがっている。